



適正委員会の 答申を受けて

教育長 江澤 正思

- 旧行政区域に縛られない「適正配置」
- 質の高い教育を提供するための「適正規模」
について検討をお願いしました

昨年3月、合併によって山陽小野田市が誕生しました。旧市町に配置されていた学校も、旧行政区域に縛られることのない、よりよい「適正配置」のあり方とともに、新市として全国的に進む少子化の中で、次代を担う子どもたちにいかに質の高い教育を提供できるかという観点からの、「適正規模」についての方針を検討する必要性が生じました。そのため、教育委員会では、大学、小・中学校長会、PTA 連合会、子ども会育成連絡協議会、自治会連合会、幼稚園連盟、保育連盟、女性団体連絡協議会、青少年問題協議会に人選をお願いし、公募で選ばれた一般市民の方とともに、「市立学校適正規模適正配置検討委員会」を設置し、これらの広範な団体・市民から選ばれた委員のみなさん

▼答申書を江澤教育長（右）に提出する村田委員長（左）と岸野副委員長（中央）



に、新市における市立学校の適正規模適正配置についての検討をお願いいたしました。

その際、集中して議論し、できるだけ早く答申を出していただくようお願いしたのは、現在、厚陽中学校の問題が教育委員会の最優先課題の一つとしてあり、この委員会の緊急性と重要性が極めて高いと判断したためです。今回、3か月という短期間で一定の方向性のある結論をまとめたことに対して、委員のみなさんに厚く御礼申し上げます。

子どもの教育を第一に据えて 「適正規模」「適正配置」をすすめていきます

「検討委員会」では、集中して自由で真摯な議論が7回にわたって活発に展開されました。その議論がまとめられた答申書が10月6日に教育委員会に対して提出されたところです。今回の広報では、紙面の都合でその答申書の結論部分のみの掲載となりましたが、1回目からの議論のすべては、発言者名も含めてすべてホームページに公開しています。次第に集約されていく議論をご覧になれば、多くの方が今回の答申書の内容について納得されることと思います。

今後は、この答申を尊重して、子どもの教育を第一に据えた適正規模、適正配置を進める所存です。市民のみなさんのご理解、ご協力をお願いいたします。

市立学校適正規模適正配置検討委員（敬称略）

【委員長】	
村田 貴信	山口東京理科大学助教授
【副委員長】	
岸野 拓男	宇部フロンティア大学教授
渡邊 喜久子	厚陽小校長（小学校長会代表）
黒瀬 寛	小野田中校長（中学校長会代表）
伊藤 日出男	小・中学校PTA連合会会長（小学校）
田中 淳二	小・中学校PTA連合会副会長（中学校）
伊藤 紀	子ども会育成連絡協議会副会長
渡部 和行	私立幼稚園連盟会長
加藤 善成	厚狭郡保育連盟副会長
瀬井 達也	自治会連合会副会長
半矢 幸子	女性団体連絡協議会会長
平田 武	青少年問題協議会委員
新藤 精二	（公募委員）
杉山 美年子	（公募委員）
関野 隆子	（公募委員）